

9月19日 5限目。1年生の道徳で「銀色のシャープペンシル」という話の授業をしたときのこと。テーマは『心の弱さをのりこえるために』でした。

「『心の弱さ』とは何だろう？」の質問に、「傷つきやすい」「さぼる」「すねる」「勇気がない」「嫌なことから逃げる」「すぐ泣く」「ウソをつく」「自分より弱い人を見つけて偉そうにする」などの答えが出て、みんなで意見交換。後日、「キラリノート」に書いてもらったそれぞれの考えをうなずきながら読んでいく中、ハッとする内容と出会いました。紹介します。

心の弱さとは

私は「すぐ泣く」とか、「勇気がでない」ということもあるかもしれないけれど、心の弱い人は心の弱い人なりに困っている人を助けることができるのではないかと思った。なぜなら、自分と同じ気持ちだから、一番その子と寄りそうことができると思うから。

(なんて深い考え方なのだろう) そう思わずにはいられませんでした。

「銀色のシャープペンシル」の主人公は、拾ったものを勝手に使うし、友だちにウソをついてごまかそうとするし…。指摘したくなるどころだらけ。でも誰かが、「ウソをついてごまかそうとしたのは、こう思ったからだよな……」と、本人の心の奥底を想像し、ひと声かけてあげたとしたら？ 自分の気持ちと素直に向き合って、考え直そうとしたかもしれない。

上記の意見を書いてくれた人は、授業の振り返りで場面ごとの主人公の気持ちを考え、「正直にあやまればいいなと思った」と書いたあとに、こんなふうに続けています。

でも、心の弱い人は悪いことじゃないんじゃないかとも思いました。

「心の弱さ」のイメージは、人それぞれ。「自分を甘やかしてわがまま言って他人に迷惑をかけるような心の弱い人は許せない」と感じるのもわかる。「心の弱さには真正面からぶつかって、無くさなくては」と考える人も多いだろう。ただ、中学時代は、「やらなければとわかっていても言えない、できない」ことも多い時期。自分の中の「心の弱さ」を消そうとするのではなく、「弱さ」として認め(人は自分が「弱い」とは思われたくなくて、目をそらすか強がるかになりがちで、難しいことだけれど) その「弱さ」を見せられる仲間がいて、相手の「弱さ」に寄り添うこともできたら……互いに新しい道が見えるかもしれない。そんな思いが、クラスの中に育っていけば、あたたかい集団になるのではないか――。

今回の「キラリノート」に書かれた意見から私が学んだことです。